

ブックオフコーポレーション株式会社

社内開発を ASTERIA WARP で標準化 開発工数を約 60% 削減し、社内開発がスピードアップ!

開発手法統一により開発案件の引き継ぎやメンテナンス性の向上を実現

ブックオフコーポレーションは、古書の買い取り、販売で有名な BOOKOFF を全国に展開している。古書、音楽ソフトのリユースから始まり、現在は総合リユースブランドにまで成長した同社の新規ビジネス展開スピードは速い。新事業に必要な IT システムをすべてアウトソース開発するのではなく、中小規模のものは社内開発することで、ビジネス展開スピードを支えてきた。システムが増え管理の属人化が課題とされたが、それを解決すべく ASTERIA WARP を開発ツールとして導入。開発スキルの共有と工数削減、ドキュメント整備のスピード化を実現した。

スピード重視の社内開発に潜む 属人化の弊害が顕在化

ブックオフの成長を陰で支えてきたのが、同社の IT システムを開発、運用する IT 統括部だ。市場の変化に応じて新たな業態、店舗を展開するスピードが速い同社では、システム部門への要求レベルも高い。ブックオフコーポレーション株式会社 管理本部 IT 統括部総括グループの石毛 信次氏は「新業態の構想が決まり、実際に店舗が展開され、POS が稼働し始めるまでの期間は長くありません。アウトソースするだけの時間的余裕がないことも多い」と語る。アウトソースするための時間がない場合は、社内開発で対応することになるが、その際の開発手法は特に決められていなかった。対応スピードを優先していたため、担当するメンバーが得意な手法、プログラム言語によって対応を続けてきた。「その結果、いくつかの課題を抱えるようになっていた」と、同じく管理本部 IT 統括部の開発グループ長、佐々木 雅美氏は語った。特に重要視された課題は、開発やその後のメンテナンスが属人化してしまうことと、ドキュメント作成の負荷が大きいことだった。

特に大きな課題と考えられていたのが、開発の属人化だ。それぞれに持っている開発スキルが違うため、他のメンバーが開発したシステムのメンテナンスを引き継ぐのは容易ではなかった。また店舗を多く持つ小売業の常として、システムは 365 日稼働させなければならないため、週末に緊急対応を求められることもある。「店舗が営業している限りシステムを動かさなければならぬので、担当しているシステムの不具合対応のため休日に呼び出されることもあった」と

佐々木氏は言う。お互いに開発やメンテナンスをサポートしあえるよう、開発スキルの標準化が必要だった。

ドキュメント整備が課題視されるようになったのは、日本版 SOX 法の施行以降のことだ。同法の施行に伴いシステムのドキュメント整備が求められるようになったことで、開発現場の負担が増えていた。システムの規模に関わらず全てのシステムに関してドキュメントが求められ、特に小規模なシステムでは開発負荷とドキュメント作成負荷のバランスに問題が生じていた。こうした課題について石毛氏は「小規模なシステムでは開発に 1 日、ドキュメント作成に 1 日を要する場合もあり、非常に非効率だった」と語る。

ASTERIA WARP 選定の決め手は Excel 連携 セルのプロパティなどの属性情報まで指定可能

開発言語を統一することがまず検討されたが、採用する言語をひとつに絞るのは難しく、複数の言語を全員が習得するには莫大なコストと時間が必要になる。他の手段について情報収集をする中で浮上したのが、システム間を連携させるプログラマブルなツール群だった。「単なるデータ連携にとどまらず、開発環境として活用できるものがあることがわかりました。それらの中から国内開発のものを選び、比較検討を重ねた」と、佐々木氏は製品選定時を振り返る。国内開発のものに的を絞ったのは、ベンダとの距離が近くサポートがしっかりしていること、ヘルプを含めて日本語環境が整っていることが理由だった。

最終的に残った 2 製品から開発デモなども見た上で ASTERIA WARP が選ばれたのは、

asteria 導入事例

Users Report



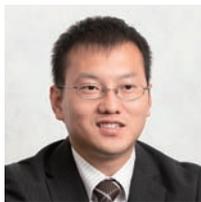
管理本部 IT 統括部
開発グループ長

佐々木 雅美氏
ささき よしみ



管理本部 IT 統括部
開発グループ

石毛 信次氏
いしげ しんじ



管理本部 IT 統括部
開発グループ

高橋 力也氏
たかはし りきや

●CORPORATE DATA

ブックオフコーポレーション株式会社

1990年の第1号店オープン以来、積極的に新店舗や新業態を展開、古書を中心にリユース業の新しい姿を示し続けてきた。「捨てない人のブックオフ」をキャッチコピーに、循環型社会のインフラを目指す。海外4カ国にも進出し、2010年4月現在で1,000店舗以上を展開している。

本社所在地 ● 神奈川県相模原市南区古淵2-14-20
URL ● <http://www.bookoff.co.jp/>

Excel連携機能が決め手だった。「ASTERIA WARPのExcel連携機能は、競合製品に比べてはるかに充実していました。連携可能なプロトコルが多いことやGUIの開発環境が視覚的でわかりやすいことも決め手になった」と、石毛氏は理由を説明する。ASTERIA WARPのExcel連携機能なら単なるデータの書き出しだけではなく、セルのプロパティを含めた細かい指定も可能だ。現場で頻繁に使われているExcelファイルの状態エラー箇所をハイライトするなどの処理が可能なので、エラー処理などの運用を円滑化できる。そして視覚的にわかりやすいアイコンを使った開発手法は、従来の開発ツールに比べてスキル習得に必要な期間を短縮できると期待された。さらに、導入を支援した住商情報システムから、導入前に具体的な課題に合わせたサンプルフローの提示を受けるなど、サポート面でのフットワークの良さも製品選定のポイントとなった。

**共同開発、メンテナンスの引き継ぎが容易に！
ドキュメント作成時間も
仕様書出力機能で大幅削減**

ASTERIA WARP導入時にまずスキルを習得したのは、管理本部 IT統括部 開発グループの高橋 力也氏。高橋氏のスキルと、先行して開発したフローをグループ内で共有し、今ではグループ全員がASTERIA WARPによる開発が可能になっている。高橋氏は「プログラムや開



発の専門的な知識がなくても使い始められ、エラー処理も簡単に作れるので助かっています。Accessと同じような感覚でデータベース連携も実装できるので、開発時間は明らかに短縮されますね」と、その導入効果を語る。石毛氏も「開発工数は従来手法に比べて約60%ほど削減されました。体感的には、1週間かかっていたものが1～2日で完成するようになったという印象」と、効果を認めている。

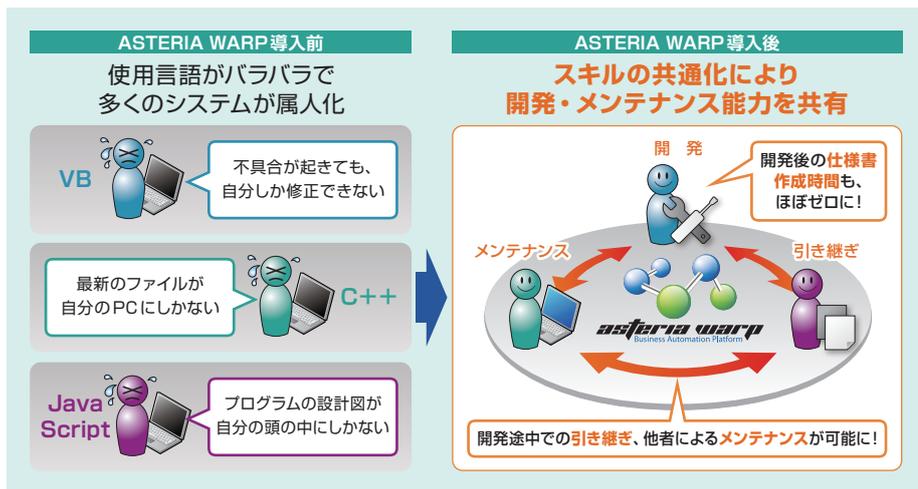
開発環境が統一されたことで、当初課題とされていた引き継ぎやメンテナンスの状況も一変した。全員が同じツールを使って開発している上、アイコンの並びを見ただけで仕組みを把握できるので、開発途中での引き継ぎや、他のメンバーが開発したツールのメンテナンスが容易に

なった。「ある程度作りこんでおき、苦手な部分だけを得意なメンバーにサポートしてもらうなど、これまでは難しかった共同開発が手軽にできるようになった」と、高橋氏は指摘する。

ドキュメントの整備も、ASTERIA WARPの仕様書出力機能により大きく変化した。小規模なシステムでは仕様書作成時間はほぼゼロにまで短縮され、大規模なシステムの場合でも作業時間を7割程度にまで圧縮できている。

規模が大きく開発期間にも余裕がある等、社内開発よりアウトソースの方が効率的と判断されたシステムに関しては引き続きアウトソースが行なわれているが、既存システムとの連携部分はASTERIA WARPを使って社内開発されるようになった。「会計システムと勤怠システムとの連携のためにプログラミング言語を用いて開発した場合の見積もりが、ASTERIA WARPの導入コストとほぼ同額でした。そのコストを削減できただけでも、ASTERIA WARPは既に投資以上の効果を挙げている」と、工数と並んでコストも削減できていることを石毛氏は教えてくれた。

ASTERIA WARP導入の効果が明確になったことを受けて、その導入効果を社内に向けてプレゼンテーションする機会も設けられることになった。「ASTERIA WARPの導入成功をアピールしたい気持ちと、ツールの存在が知れることで開発依頼が増えるのではないかという不安が混ざって、今は複雑な気持ちです(笑)」と石毛氏は語った。



infoteria
インフォテリア株式会社

〒140-0014 東京都品川区大井1丁目47番1号NTビル10F
TEL. 03-5718-1250 FAX. 03-5718-1261
E-Mail. sales@infoteria.com
URL. <http://www.infoteria.com/>

このカタログに記載された情報は2011年1月現在のものです。内容は予告なしに変更することがあります。
©2011 Infoteria Corporation All Rights Reserved.
Infoteria、インフォテリア、ASTERIAは、インフォテリア株式会社の登録商標です。
その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

お問合せ先：